

### 第3章 2 東アジア文化圏の形成 c. 唐代の制度と文化(2)

唐では、法を[1 律・令・格・式]の4つに整理し、それにもとづき、[2 三省][3 六部]および行政監察の[4 御史台]という官制をもつけ、地方には[5 州県]制をしき、[6 科挙]などにより採用された官僚が実務をこなしていた。

また[7 北魏]にはじまった[8 均田]制にもとづき農民に一定の広さの土地を与え[9 自作]農を育成する体制がとられ、これを基礎に税制としての[10 租庸調]制および兵制としての[11 府兵]制が実施されていた。

しかし墮位の制など[12 貴族]に有利な制度が残され、政治の実権を握っていたのは彼らであった。かれらは、広大な[13 荘園]をもち隷属的な農民に耕作させていた。

- ④ 唐の文化の特色…[14 異国情緒]、[15 貴族]的
- 唐詩…8世紀[16 杜甫]詩聖、[17 李白]詩仙、王維 9世紀[18 白居易]「長恨歌」  
文章…基本は[19 四六・儷文]貴族的文章、[20 古文]復興＝[21 韓愈]個性尊重、柳宗元  
絵画…人物画＝閻立本、山水画…[22 呉道玄]、王維 書道…[23 顔真卿]力強い書風  
陶器…[24 唐三彩]＝異国情緒
- ⑥ 儒学…[25 科挙]との関係で発展(「受験科目」!!)→[26 孔穎達]が訓詁学を大成する。

唐では国内経済の発展と政治の安定、[27 東西交易]の発展などを背景に、唐では華やかな文化が発展した。唐の文化の特徴は、一方では非常に[28 国際]的であったことである。たとえばイラン方面から[29 三夷]教とよばれる宗教が、海の道などを経てイスラム教([30 回]教)が伝えられた。仏教を学ぶために[31 玄奘]や[32 義浄]がインドに留学したこと。異国情緒にあふれた[33 唐三彩]という陶磁器が流行したことなどがあげられる

もう一つの特徴は南北朝の時代に引き続き[34 貴族]文化中心であったことである。詩では8世紀の[35 李白][36 杜甫]、9世紀の[37 白居易]の三大詩人があらわれ、[38 唐詩]としてよばれた。文章は貴族的な四六駢儷文が中心であったが、唐末には韓愈、柳宗元らが[39 古文]復興を唱えた。書道では[40 顔真卿]が、美術では[41 山水画]の呉道玄や王維などが有名である。

#### d. 唐の動揺

- ① 7世紀末[42 則天武后]が政権を握る(「武周革命」) 国名を周と改める、唯一の女性皇帝  
→[43 科挙]官僚の重視・[44 貴族]弱体化
- ② 開元の治…8世紀前半、[45 玄宗]皇帝のもとでの唐の政治的安定期。唐文化の全盛期

[46 均田]制度のゆきづまり→[47 逃亡農民]の増加→唐の基礎の崩壊へ  
→[48 募兵]制の採用＝[49 府兵]にかわって[50 傭兵]を用いる  
→辺境の防衛に[51 節度使]を置くようになる。→しだいに地方軍事政権化していく

\* 節度使…当初は[52 辺境]防衛のための軍司令官であったが、[53 募兵]制の採用とともに統轄管区での募兵権をえ、のちに徴税権や民政権も掌握し、[54 藩鎮]とよばれる地方軍事政権的性格を強めた。これにより中国の地方分権化が進むことになる。

- ③ 安史の乱(8世紀中期)…節度使[55 安祿山]と部下の史思明がおこした反乱  
→[56 節度使]勢力や周辺民族[57 ウイグル]の力をかり鎮圧した。  
→ウイグルの介入が進む
- ④ 均田体制の崩壊＝780[58 兩税]法の採用＝59 土地の私有を認める。

\* 兩税法…[60 租庸調]法にかわって780年採用された[61 税]制。[62 楊炎]の提言で始められた。[63 土地]の広さと[64 収穫高]に応じて夏と秋の二回税を徴収した。

- ④ 9世紀末[65 黄巢]の乱をきっかけに藩鎮勢力の独立化すすむ 後梁→後唐→後晋→後漢→後周  
→[66 907]年[67 朱全忠]、唐を滅ぼす

\* 黄巢の乱…唐末期の民衆反乱、塩の密売商人[68 黄巢]が、そのネットワークを利用して反乱を起こした。朱全忠らによって鎮圧されたが、唐の勢力は一気に衰えた。

唐は7～8世紀初、[69 則天武后]が帝位につき国名を[70 周]と改めるなどの混乱があったが、8世紀前半[71 玄宗]皇帝のもと[72 開元]の治とよばれる全盛期をむかえた。しかしその治世の末期、[73 安史]の乱が勃発し、唐は弱体化した。

この時期、辺境防衛のためおかれた軍司令官[74 節度使]が力を伸ばし[75 藩鎮]と呼ばれる地方軍事政権となっていた。軍制が[76 募兵]制に移ったのをはじめに、土地制度の[77 均田]制もゆきづまり、780年の[78 兩税]法でこうした体制は事実上崩壊した。

これ以後も唐は節度使の連合政権的な形で存在しつづけたが、9世紀末の[79 黄巢]の乱でいっそうの弱体化がすすみ、ついに[80 907]年[81 朱全忠]に滅された。

#### e. 五代の分裂時代 貴族中心の社会から、地主中心の社会へ

907年唐が、節度使の[82 朱全忠]に滅ぼされると、中国は[83 五代十国]時代を迎えた。この時期、中国各地では[84 節度使]勢力が独立、割拠した。このような社会変動のなか[85 貴族]層は荘園の支配権を失い、かわって[86 節度使]や荘園の支配権を手に入れた新興[87 地主]階級(形勢戸)が台頭した。

- ① 唐の滅亡後、[88 節度使]勢力(＝軍人)の独立、分立化がすすむ  
→華北で5つの王朝(五代)、他の地方で十あまりの国が興亡([89 五代十国]時代)  
建国者は[90 節度使]が中心([91 武断]政治が行われる) 907～960  
首都の多くは[92 開封](汴州)におかれる

- ③ 社会の変動…[93 貴族]層の没落→新興[94 地主]階級(形勢戸)の台頭

形勢戸…中国、唐末以降力をつけてきた[95 新興地主]階級。貴族に変わって[96 荘園]を獲得し、[97 佃戸]に土地を貸し付けて小作料を得た。  
佃戸…中国における98 小作農民をいう。小作地を耕し、収穫物の[99 半分]程度を地主に小作料として支払った。地主と小作の関係は主人と奴隷といったものから対等な貸借関係などさまざまであった。